

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	株式会社 伝統芸能オフィス
公演団体名	一般社団法人 三宅狂言会

内容

ワークショップ・本公演を通してのコロナ対応について

本プログラムの狂言「茸」は、ワークショップから狂言師と児童・生徒さんが一緒にお稽古をしながら作り上げる作品となっております。

感染症拡大防止として下記の対策を施し、万全の状態で行ワークショップ・本公演ともに開催させていただきます。

・消毒、マスク等着用徹底

※狂言上演時は、マスクを外しての公演となります。

その際、能舞台と児童・生徒さんの鑑賞エリアは十分ソーシャルディスタンスを取ります。

・公演時間は、最大45分公演に短縮可能でございます。

このコロナ対応の内容でもご心配だという学校様は、ワークショップ・本公演ともにコロナ対応に基づいた下記プログラム“コロナ対応版”での開催も可能です。

コロナ対応版ワークショップ

～本来、本公演で予定している狂言の歴史・所作などの基本的な解説を、実演を交えながら行います～

1、狂言の解説 ～狂言ってなあに？～

初めて狂言、伝統芸能の世界に触れる児童生徒のために、簡単な歴史や、能舞台のしくみ、役割、狂言の衣裳、装束(しょうぞく)、狂言独特の演出方法などを実演をまじえながらわかりやすく解説します

※教科書に「柿山伏」が載っている学校は、「柿山伏」の解説をいたします

狂言を楽しく鑑賞する決まり事を
わかりやすくおはなしします

- 狂言はいつの時代にできたの？
- 能舞台ってどのような構造なの？
- 狂言の衣裳のあれこれ
- 狂言に登場するゆかいなキャラクター
などなど

狂言の特徴

- 名乗り……「このあたりの者でござる」など名乗り、自分が何者かを観客に知らせます
- 道行き……セリフを言いながら能舞台の柱に沿って三角に歩き目的地まで向かう様子
- 擬音……垣根をのこぎりで切る音、垣根を破る音や動物の鳴き真似をする様子など

2、狂言の解説 ～狂言ってなあに？～

狂言の世界を体験 1日狂言師の気分を味わおう!

- 基本動作を一緒にやってみよう!

狂言にはさまざまな所作があります。泣いたり、大笑いを見ている人にわかりやすくするために、大きな動作を試してみせます。

狂言のカマエ、ハコビ、すり足などの狂言の動きを一緒にやってみよう!

3、☆謡(うたい)ってなあに？

- みんなで謡を謡おう!

狂言はセリフだけでなく、歌謡的要素の狂言も大きな魅力の一つです。

馴染みやすい狂言の謡「兎(うさぎ)」の一節を全員で謡ってみましょう。

※児童・生徒さんとの声出しが難しい場合は、狂言師のみが実演します。

※本公演のコロナ対応プログラムについては「本公演」のページをご覧ください。

タイムスケジュール（標準）

ワークショップ開始時間が 9:30 の場合
8:30 準備開始
9:30 ワークショップ開始
11:00 ワークショップ終了・片付け開始
11:30 片付け終了

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

4 名
内訳
・主たる指導者——1 ・従たる指導者——2 名
・スタッフ ——1

学校における事前指導

児童生徒、教師のみなさまは、マスク着用をお願い致します。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	株式会社 伝統芸能オフィス
公演団体名	一般社団法人 三宅狂言会

演目
<p style="text-align: center;">コロナ対応版 本公演</p> <p>本来は本公演で狂言の歴史・所作などの基本的な解説を行います、 コロナ対応版では、ワークショップで狂言の基礎的な解説を聞いて狂言について触れ、 本公演の前半では、もう一歩進んだステップアップ狂言解説として、ワークショップで学んだことを クイズ形式で出題するなど子どもたちが楽しみながら狂言さらに深く学びます。 その後本物の狂言に触れて頂く内容です。</p> <p>1、狂言解説ステップアップ～クイズ あなたは誰?～</p> <p>狂言で面(おもて)をつけて登場するのは、人間以外の動物・鬼・妖精など。 その特徴的な動作や声マネをするので、あててみよう!</p> <p>狂言にはいろいろな生き物が出てくるんだね! それでは、早速狂言を見てみよう!</p> <p>2、狂言「梟山伏(ふくろうやまぶし)」</p> <p>～休 憩～</p> <p>ワークショップ・本公演を通して学んだ狂言の世界、 その面白さを最後にもう一度御覧頂いて、本プログラムのフィナーレとなります。</p> <p>3、狂言「附子(ぶす)」</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
9名
内訳
出演者 5名
スタッフ 4名

タイムスケジュール（標準）

9:00～ 到着・設営
11:00～ リハーサル
12:30～ 昼食休憩
13:00～ 開場
13:30～15:00 公演
15:00～17:00 撤収・完全退館

実施校への協力依頼人員

とくにありません(事前に体育館の簡単なお掃除をお願い致します)

演目解説

狂言「梟山伏(ふくろうやまぶし)」

あらすじ

山から帰ってきた弟の様子がおかしいので、薬を飲ませますが、いっこうにききめがありません。心配した兄は、山伏に治してもらおうと頼みに行きます。山伏が弟に向かって一心に祈ると、弟は突然「ホホン」とおかしな声をあげます。不思議に思った山伏が何か心当たりがないか兄に尋ねると、弟が山で梟の巣を下ろしていたことがわかります。こうなってしまったのは、梟が弟の体にとりついたからに違いないと山伏は、梟の嫌いな鳥の印を結んで懸命に祈ります。ところが山伏が祈れば祈るほど、弟ばかりか、今度は兄にも梟がとりついて、兄弟共々鳴きはじめてしまいます。驚いた山伏は、なんとかしなければと、兄弟の間を右往左往して祈り続けるうち、とうとう自分にも梟がとりついてしまうのでした。

狂言「附子(ぶす)」

あらすじ

ご主人様が太郎冠者と次郎冠者に留守番をするように言いつけます。主人は桶の中には、「附子」という毒が入っていて、主人以外の人を取り扱くと、そこから吹く風にあたっただけで死んでしまうから絶対に近づかないように言って出かけます。

太郎冠者と次郎冠者は、「附子」が気に入り、こわごとと附子から吹く風をあおぎ返しながら桶の中のをぞきこむと、入っていたのは毒ではなく砂糖でした。

だまされていたことを怒った太郎冠者と次郎冠者は附子を全部食べてしまいます。

さて主人が帰ってきた時、ふたりが言った言い訳とは…。

どちらも子どもたちが楽しめるわかりやすいポピュラーな狂言です

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

「狂言の楽しさを全員で体験する」

子どもたちに、実際の狂言の舞台を体験してもらうことで、表現力、創造力を豊かにし、伝統芸能をより身近に感じることができます。

狂言では、心からの挨拶と感謝でお稽古が始まります。背筋を伸ばすことで、大きな声を出すことができます。

狂言には猿、犬の鳴き声や、扉を開くときの音などの擬音がたくさん出てきます。それらを実演しながら子どもたちになんの擬音なのかを想像してもらいます。また、子どもたちに親しみやすい動物を表現した「兎(うさぎ)」の謡(うたい)を全員でうたいます。お腹の底から大きな声をだして会場に響き渡るように謡います。

低学年には難しいと思われる狂言ですが、子どもたちは言葉の響きの面白さや狂言独特の空気を自然と感じ取って楽しむ能力があります。観客の児童生徒は、自分の友人や身近な人間が舞台に出ていることで、より親近感がわき、狂言をもっと身近に感じていただけるようです。

実際に児童・生徒が登場するやいなや、会場からあたたかい笑いがあふれ出し、出演の子どもたちが作った「面」や「笠」を見て、その色とりどりの模様や形のおもしろさを楽しんでいます。

次代を担う子どもたちが、狂言の舞台に参加し、作品を作り上げることで強い印象を残すことができます。狂言をより身近に感じていただき、将来において狂言を支える観客が育つこと、また、この舞台を経験したことで、狂言師になるきっかけづくりになればと思っています。

児童生徒とのふれあい

「自分たちで一つの作品を作り上げる」

この舞台の**主役**は、**子どもたちと先生自身**です。

鬼茸を先生が演じ、児童生徒が主役となって、**実際の舞台で演じる**ところに大きな特色があります。

狂言では、お客様に楽しんでもらうために、きびしい稽古を重ねて舞台に出ます。

体験する児童・生徒には、**一つのことに取り組むことの大切さ**、うまくできたときの達成感など感じていただき、今後何かをやり遂げる時には、この経験を思い出して**一つのことをやり遂げる力**をつけてもらいたいと思います。

「演技力、表現力を磨く」

子どもたちが演じるキノコはさまざま。ちょこちょこと可愛い動きの低学年の子のキノコ。

高学年はしっかりした動きのキノコ。
鬼茸役の先生の怖くも威厳のある動き。
それぞれ個性的なキノコたちが舞台の上で動き回り、
創造性や演じる力を高めることができます。

「共演で得られるもの」

各学年から参加児童・生徒がそれぞれ集まり一つのことをやり遂げる。
すると、参加児童同士が自主的に教え合い、高学年の児童が低学年の児童を
フォローするなど**コミュニケーションが生まれます。**
また自分自身の個性を磨くだけでなく、他の人の動きを観察して、
自分との違いを研究するなど自分を客観視することもできます。
お互い協力して舞台を作り上げることで、**チームとしての団結力が深まる**ばかり
ではなく、他の人よりも、もっと大きな声を出そうなどの、いい意味での対抗意識
が生まれ、**物事に取り組む意欲が高まる**効果があります。

指導者は子どもたちと真剣に取り組めます。子どもたちはその期待に
答えようと一生懸命取り組んで、お互いの信頼関係が築き上げられます。

「想像力・製作力が高まる」

自分の想像力を駆使して、茸の顔を「面」と「傘」をつくります。
子ども達の自由な発想でデザインしたものは面白く、
舞台をより一層豊かにさせることができ、
児童・生徒それぞれの個性を表現する力が高まります。
先生、友達、家族の方々と話し合いながら
オリジナルの「面」「傘」づくりを楽しみながら作成しましょう。

- ※ 説明書はあくまでも作り方の一例としてお渡しします。
作る素材も自由に考えさせることで面白いものが出来上がります。
(子どもたちの自由な発想を大事に)